

研修区分票

平成31年4月1日作成

| 科目・教科                    |    |    |    |   | 到達目標・講義の内容・演習の実施方法実習実施内容・通信学習課程の概要等  |
|--------------------------|----|----|----|---|--|
|                          | 通学 | 通信 | 実習 | 計 |  |
| 1 職務の理解                  | 6  |    |    | 6 | <b>【到達目標】</b><br>●これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について具体的なイメージを持って実感できるようにする。<br>●介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うか、具体的なイメージを持って以降の研修に実践的に取り組めるようにする。   |
| (1)多様なサービスの理解            | 3  |    |    | 3 | <b>【講義内容】</b><br>●介護保険サービス（居宅・施設）<br>●介護保険外サービス  |
| (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解      | 3  |    |    | 3 | <b>【講義内容】</b><br>●居宅・施設の多様な職場におけるそれぞれの仕事内容<br>●居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ<br>●ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務と流れとチームアプローチ・他職種、介護保険以外のサービスを含めた地域の社会資源との連携<br><b>【演習】</b><br>・グループワークで介護職のイメージを話し合い、仕事の内容を理解する。   |
| 2 介護における尊厳の保持・自立支援       | 9  |    |    | 9 | <b>【到達目標】</b><br>●介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。<br>●自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたって基本的視点及びやってはいけない行為例を理解する。  |
| (1)人権と尊厳を支える介護           | 3  |    |    | 3 | <b>【講義内容】</b><br>●人権と尊厳の保持<br>①個人としての尊重、②アドボカシー③エンパワメントの視点④「役割」の実感⑤尊厳のある暮らし⑥利用者のプライバシーの保護<br>●ICF：介護分野におけるICF<br>●QOL：①QOLの考え方②生活の質<br>●ノーマライゼーション：ノーマライゼーションの考え方<br>●虐待防止・身体拘束禁止<br>①身体拘束禁止②高齢者虐待防止法③高齢者の養護者支援<br>●個人の権利を守る制度の概要<br>①日常生活自立支援事業②成年後見制度③苦情解決の制度④個人情報保護法⑤消費者保護法<br><b>【演習】</b><br>・尊厳保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れた介護の目標や展開についてグループ討議等で理解を深める。<br>・事例検討 身体拘束に関する事例からしてはいけない行動を探る。 |
| (2)自立に向けた介護              | 4  |    |    | 4 | <b>【講義内容】</b><br>●自立支援<br>①自立・自律支援②残存能力の活用③動機の欲求④意欲を高める支援⑤個性/個別ケア⑥重度化の防止<br>●介護予防 介護予防の考え方   |
| (3)人権に関する基礎知識            | 2  |    |    | 2 | <b>【講義内容】</b><br>●人権に関する基本的な知識、同和問題等を理解する。   |
| 3 介護の基本                  | 6  |    |    | 6 | <b>【到達目標】</b><br>●介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく<br>●職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。<br>●介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようになる。   |
| (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携    | 2  |    |    | 2 | <b>【講義内容】</b><br>●介護環境の特徴の理解<br>①訪問介護と施設介護サービスの違い②地域包括ケアの方向性<br>●介護の専門性<br>①重度化防止・遅延化の視点②利用者主体の支援姿勢③自立した生活を支えるための援助④根拠ある介護⑤チームケアの重要性⑥事業所内のチーム⑦他職種からなるチーム<br>●介護に関する職種<br>①異なる専門性を持つ多職種の理解、②介護支援専門員、③サービス提供責任者、④看護師等とチームとなり支える意味、⑤互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、⑥チームケアにおける役割分担   |
| (2)介護職の職業倫理              | 1  |    |    | 1 | <b>【講義内容】</b><br>●職業倫理<br>(①専門職の倫理の意義②介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等) ③介護職としての社会的責任④プライバシーの保護・尊重  |
| (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント | 2  |    |    | 2 | <b>【講義内容】</b><br>●介護における安全の確保<br>①事故に結びつく要因を探り対応していく技術、②リスクとハザード<br>●事故予防、安全対策<br>①リスクマネジメント②分析の手法と視点③事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等）④情報の共有<br>●感染対策<br>①感染の原因と経路（感染源の排除感染経路の遮断）②「感染」に対する正しい知識   |

|                         |   |  |   |   |
|-------------------------|---|--|---|---|
| (4) 介護職の安全              | 1 |  | 1 | <p>【講義内容】</p> <p>●介護職の心身の健康管理<br/>①介護職の健康管理が介護の質に影響②ストレスマネジメント③腰痛の予防に関する知識④手洗い・うがいの励行⑤手洗いの基本、⑥感染症対策</p> <p>【演習】</p> <p>腰痛予防、感染症対策を踏まえた手洗い、うがい等を演習により理解を深める</p>  |
| 4 介護・福祉サービスの理解との医療の連携   | 9 |  | 9 | <p>【到達目標】</p> <p>介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できるようになる。</p>  |
| (1) 介護保険制度              | 3 |  | 3 | <p>【講義内容】</p> <p>●介護保険制度創設の背景および目的、動向<br/>①ケアマネジメント②予防重視型システムへの転換③地域包括支援センターの設置④地域包括ケアシステムの推進</p> <p>●仕組みの基礎的理解<br/>①保険制度としての基本的仕組み②介護給付と種類③予防給付、④要介護認定の手順</p> <p>●制度を支える財源、組織、団体の機能と役割<br/>①財政負担②指定介護サービス事業者の指定</p> <p>【演習】</p> <p>・介護サービスや地域支援の役割など、その流れについてグループ討議を行い理解を深めていく。</p>  |
| (2) 医療との連携とリハビリテーション    | 3 |  | 3 | <p>【講義内容】</p> <p>①医行為と介護②訪問介護③施設における看護と介護の役割・連携④リハビリテーションの理念</p> <p>【演習】</p> <p>・リハビリテーション医療と介護の連携についてグループ討議の中で重要性を探る。</p>  |
| (3) 障がい者総合支援制度およびその他制度  | 3 |  | 3 | <p>【講義内容】</p> <p>●障がい者の福祉制度の理念<br/>①障がいの理念②ICF（国際生活機能分類）</p> <p>●障がい者総合支援制度の仕組みの基本的理解<br/>介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>●個人の権利を守る制度の概要<br/>①個人情報保護法②成年後見制度③日常生活自立支援事業</p>  |
| 5 介護におけるコミュニケーション技術     | 6 |  | 6 | <p>【到達目標】</p> <p>高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。</p>  |
| (1) 介護におけるコミュニケーション     | 3 |  | 3 | <p>【講義内容】</p> <p>●介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割<br/>①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮②傾聴③共感の応答</p> <p>●コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション<br/>①言語的コミュニケーションの特技②非言語的コミュニケーションの特技</p> <p>●利用者・家族とのコミュニケーションの実際<br/>①利用者の思いを把握する②意欲低下の要因を考える③利用者の感情を共感する④家族の心理的理解⑤家族へのいたわりと励まし⑥信頼関係の形成⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする⑧アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>●利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際<br/>①視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術<br/>②失語症に応じたコミュニケーション技術<br/>③構音障がいに応じたコミュニケーション技術<br/>④認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>【演習】</p> <p>2人一組で、状況、状態に応じた利用者・介護者双方向のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p> <p>・グループに分かれ、ロールプレイングでの気づきを話し合う。</p> |
| (2) 介護におけるチームのコミュニケーション | 3 |  | 3 | <p>【講義内容】</p> <p>●記録における情報の共有化<br/>①介護における記録の意義・目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録②介護に関する記録の種類③個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）④ヒヤリハット報告書⑤5W1H</p> <p>●報告・連絡・相談<br/>①報告の留意点②連絡の留意点③相談の留意点</p> <p>●コミュニケーションを促す環境<br/>①会議②情報共有の場③役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察の眼）④ケアカンファレンスの重要性</p> <p>【演習】</p> <p>・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する。</p> <p>・グループに分かれ、カンファレンスの模擬体験をする。</p>  |
| 6 老化の理解                 | 6 |  | 6 | <p>【到達目標】</p> <p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。</p>   |
| (1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常  | 3 |  | 3 | <p>【講義内容】</p> <p>●老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴<br/>①防衛反応（反射）の変化②喪失体験</p> <p>●老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響<br/>①身体的機能の変化と日常生活への影響<br/>②咀嚼機能の低下<br/>③筋・骨・関節の変化<br/>④体温維持機能の変化<br/>⑤精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>【演習】</p> <p>・グループに分かれ、老化に伴う心身の変化、かかりやすい疾病について討議する中で、生理的な側面から理解することの重要性を考える。</p>   |

|  |   |  |   |  |
|--|---|--|---|--|
| (2)高齢者と健康                                | 3 |  | 3 | <b>【講義内容】</b><br>●高齢者の疾病と生活上の留意点<br>①骨折②筋力の低下と動き・姿勢の変化③関節痛<br>●高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点<br>①循環器障がい（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）<br>②循環器障がいの危険因子と対策<br>③老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）<br>④誤嚥性肺炎<br>⑤病状の小さい変化に気付く視点<br>⑥高齢者は感染症にかかりやすい<br><b>【演習】</b><br>・症状の小さな変化にどのようにすれば気づけるか、グループ討議の中で理解を深める。 |
| 7 認知症の理解                                 | 6 |  | 6 | <b>【到達目標】</b><br>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解する。  |
| (1)認知症を取り巻く状況                            | 1 |  | 1 | <b>【講義内容】</b><br>●認知症ケアの理念<br>①パーソンセンタードア<br>②認知症ケアの視点（できることに着目する）   |
| (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理                  | 2 |  | 2 | <b>【講義内容】</b><br>●認知症の概念<br>●認知症の原因疾患とその病態<br>●原因疾患別ケアのポイント・健康管理<br>①認知症の定義②物忘れとの違い③せん妄の症状<br>④健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア）<br>⑤治療⑥薬物療法⑦認知症に使用される薬<br><b>【演習】</b><br>・健康な高齢者の物忘れと認知症による記憶障がいの違いについて、グループ討議の中で理解を深める。派遣  |
| (3)認知症に伴うこととからだの変化と日常生活                  | 2 |  | 2 | <b>【講義内容】</b><br>●認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴<br>①認知症の中核症状<br>②認知症の行動・心理症状（BPSD）<br>③不適切なケア<br>④生活環境で改善<br>●認知症の利用者への対応<br>①本人の気持ちを推察する②プライドを傷つけない<br>③相手の世界に合わせる④失敗しないような状況をつくる<br>⑤すべての援助行為がコミュニケーションであることを考えること<br>⑥身体を通じたコミュニケーション<br>⑦相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する<br>⑧認知症の進行に合わせたケア                 |
| (4)家族への支援                                | 1 |  | 1 | <b>【講義内容】</b><br>①認知症の受容課程での援助<br>②介護負担の軽減（レスパイトケア）<br><b>【演習】</b><br>・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて、グループ討議を行う中で理解を深めていく。   |
| 8 障がいの理解                                 | 3 |  | 3 | <b>【到達目標】</b><br>障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。  |
| (1)障がいの基礎的理解                             | 1 |  | 1 | <b>【講義内容】</b><br>●障がいの概念とICF<br>①ICFの分類と医学的分類②ICFの考え方<br>●障がい者福祉の基本理念<br>①ノーマライゼーションの概念  |
| (2)障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かわり支援等の基礎的知識 | 1 |  | 1 | <b>【講義内容】</b><br>●身体障がい<br>①視覚障がい②聴覚、平衡障がい③音声・言語・咀嚼障がい<br>④肢体不自由⑤内部障がい<br>●知的障がい<br>①知的障がい<br>●精神障がい（高次脳機能障がい・発達障がいを含む）<br>①統合失調症・気分（感情障がい）・依存症などの精神疾患<br>②高次脳機能障がい<br>③広汎性発達障がい・学習障がい・注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい<br>●その他の心理の機能障がい<br><b>【演習】</b><br>・それぞれの障がいの特性と介護上の留意点について、グループ討議の中で理解を深める。           |

|  |     |   |   |     |  |
|--|-----|---|---|-----|--|
| (3) 家族の心理、かかわり支援の理解  | 1   |   |   | 1   | <b>【講義内容】</b><br>●家族への理解<br>①障がいの理解・障がいの受容支援③介護負担の軽減<br><b>【演習】</b><br>障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について、グループ検討の中で理解を深める。   |
| 9 ことごとからだのしくみと生活支援技術   | 68  | 0 | 7 | 75  | <b>【到達目標】</b><br>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基本的な一部または全介助等の介護が実施できるようにする。<br>・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。   |
| 9 <b>【Ⅰ 基本知識の学習】</b><br>(1) 介護の基本的な考え方                       | 3   |   |   | 3   | <b>【講義内容】</b><br>①倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）<br>②法的根拠に基づく介護<br><b>【演習】</b><br>・ICFに基づく生活支援についてグループ討議をおこない介護とは何かを考えることで、今後の技術演習に活用していく。   |
| 9 <b>【Ⅰ 基本知識の学習】</b><br>(2) 介護に関することごとからだのしくみの基礎的理解          | 3.5 |   |   | 3.5 | <b>【講義内容】</b><br>①学習と記憶の基礎知識②感情と意欲の基礎知識<br>③自己概念と生きがい<br>④老化や障害を受入れる適応行動とその阻害要因<br>⑤ことごとからだの持ち方が行動に与える影響<br>⑥からだの状態がことごとに与える影響<br><b>【演習】</b><br>・グループ討議により、人の記憶の構造や意欲等を支援に結びつけて考えていく。   |
| 9 <b>【Ⅰ 基本知識の学習】</b><br>(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解              | 3.5 |   |   | 3.5 | <b>【講義内容】</b><br>①人体の各部の名称と働きに関する基礎知識<br>②骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用<br>③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識<br>④自律神経と内部器官に関する基礎知識<br>⑤ことごとからだを一体的に捉える<br>⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点<br><b>【演習】</b><br>・利用者の様子から普段とは違う身体的変化に気づくにはどうすればよいか、グループ討議を行う。<br>・介護教材を活用して人体について理解を深める  |
| 9 <b>【Ⅱ 生活支援技術の学習】</b><br>(4) 生活と家事                          | 3   |   |   | 3   | <b>【講義内容】</b><br>●家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援<br>①生活歴②自立支援③予防的な対応④主体的・能動性を引き出す<br>⑤多様な生活習慣⑥価値観<br><b>【演習】</b><br>・生活の基本的領域の理解と配慮について、グループ討議の中で理解を深める。   |
| 9 <b>【Ⅱ 生活支援技術の学習】</b><br>(5) 快適な居住環境整備と介護                   | 3   |   |   | 3   | <b>【講義内容】</b><br>●快適な住宅環境に関する基礎知識、●高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法<br>①家庭内に多い事故②バリアフリー③住宅改修④福祉用具貸与<br><b>【演習】</b><br>・福祉用具センターを見学し上記内容についての理解を深める。  |
| 9 <b>【Ⅱ 生活支援技術の学習】</b><br>(6) 整容に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護    | 5.5 |   |   | 5.5 | <b>【講義内容】</b><br>●整容に関する基礎知識、●整容の支援技術<br>①身体状況に合わせた衣服の選択、着脱②身じたく③整容行為<br>④洗面の意欲・効果<br><b>【実技】</b><br>・口腔ケア（ペア）、衣服の着脱（グループ）の実技演習を行う。<br>・装うことや整容の意義について、グループ討議を行う。<br>・バイタルチェックの仕方について、演習を行う。   |
| 9 <b>【Ⅱ 生活支援技術の学習】</b><br>(7) 移動・移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6   |   |   | 6   | <b>【講義内容】</b><br>●移動・移乗に関する基礎知識<br>●さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法<br>●利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害することごとからだの要因の理解と支援方法<br>●移動と社会参加の留意点と支援<br>①利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法<br>②利用者の自然な動きの活用<br>③残存能力の活用・自立支援<br>④重心・重力の動きの理解<br>⑤ボディメカニクスの基本原理<br>⑥移乗介護の具体的な方法<br>（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベット・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）<br>⑦移動介助（車いす・歩行器・杖等）⑧褥瘡予防<br><b>【実技】</b><br>・利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗の方法を実技の中で学ぶ。<br>・車いすの操作、ベット、車いす間の移乗<br>・車いす、洋式トイレ間の移乗<br>・屋外での移動介助の練習（車いす・歩行器・杖等）<br>・褥瘡予防のための体位交換（シーツ交換等） |

|  |     |     |     |   |
|--|-----|-----|-----|---|
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護      | 6   |     | 6   | <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●食事に関する基礎知識</li> <li>●食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ</li> <li>●楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>●食事と社会参加の留意点と支援</li> <li>①食事をする意味②食事のケアに対する介護者の意識</li> <li>③低栄養の弊害④脱水の弊害⑤食事と姿勢</li> <li>⑥咀嚼・嚥下のメカニズム⑦空腹感、⑧満腹感⑨好み</li> <li>⑩食事の環境整備（時間・場所等）</li> <li>⑪食事に関する福祉用具の活用と介助方法</li> <li>⑫口腔ケアの定義、⑬誤嚥性肺炎の予防</li> </ul> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下の体操、水分摂取の方法、食事介助の方法などを利用者の状況によりその違いを学ぶ。</li> </ul>   |
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(9)入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 6   |     | 6   | <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●入浴、清拭保持に関連した基礎知識</li> <li>●さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法</li> <li>●楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>①羞恥心や遠慮への配慮、②体調の確認</li> <li>③全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）</li> <li>④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法</li> <li>⑤陰部洗浄（臥床状態での方法）</li> <li>⑥足浴・手浴・洗髪</li> </ul> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の介助方法、全身清拭の方法、足浴・手浴・洗髪の方法など、清潔保持に関連する実技演習を行う。</li> </ul>  |
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護     | 5.5 |     | 5.5 | <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●排泄に関する基礎知識</li> <li>●さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法</li> <li>●爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>①排泄とは②身体面（生理面）での意味③心理面での意味</li> <li>④社会的な意味⑤プライド・羞恥心⑥プライバシーの確保</li> <li>⑦おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害</li> <li>⑧排泄障害が日常生活上に及ぼす影響</li> <li>⑨排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連</li> <li>⑩一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法</li> <li>⑪便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ）</li> </ul> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータブルトイレとベットの介助と移乗の方法</li> <li>・横臥の状態での尿器等の使用方法和介助方法</li> <li>・おむつ交換の方法</li> <li>・車いすでのトイレの移乗と介助の方法</li> <li>・陰部洗浄の方法</li> </ul> |
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護     | 6   |     | 6   | <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●睡眠に関する基礎知識。</li> <li>●さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、</li> <li>●快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>①安眠のための介護の工夫</li> <li>②環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）</li> <li>③安楽な姿勢・褥瘡予防</li> </ul> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安楽な姿勢、体位の実技、寝室の工夫、安眠のための環境について、実技から考えていく。</li> <li>・夜間に多い緊急時の対応について実技で学ぶ。（AEDの使用法・蘇生の仕方など）</li> </ul>   |
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(12)死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護      | 5   |     | 5   | <p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●終末期に関する基礎知識とところとからだにしくみ</li> <li>●生から死への課程「死」に向き合うところの理解</li> <li>●苦痛の少ない死への支援</li> <li>①終末期ケアとは</li> <li>②高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）</li> <li>③臨終が近づいたときの兆候と介護</li> <li>④介護従事者の基本的態度</li> <li>⑤多職種間の情報共有の必要性</li> </ul> <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生から死への課程の中で介護者としてどのようにかかわっていくのか、グループ討議の中で理解を深めていく。</li> </ul>  |
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(13)施設実習                            |     |     | 7   | <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●さらにより効果的な研修となることをめざし、施設介護実習、デイサービスの実習を実施する。</li> <li>●これまで学んだ「ところとからだのしくみと自立に向けた介護」が現場でどのように展開されているかを知る。</li> </ul>   |
| 9【Ⅱ生活支援技術の学習】<br>(13)訪問介護実習                          |     | (6) | (6) | <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●さらにより効果的な研修となることをめざし、訪問介護実習を実施する。</li> <li>●これまで学んだ「ところとからだのしくみと自立に向けた介護」が現場でどのように展開されているかを知る。</li> </ul>   |

|                                 |   |  |   |  |
|---------------------------------|---|--|---|--|
| 9【Ⅲ生活支援技術の学習】<br>(14)介護過程の基礎的理解 | 6 |  | 6 | <b>【講義内容】</b><br>①介護課程の目的・意義・展開<br>②介護過程とチームアプローチ<br><b>【演習】</b><br>・グループに分かれて、事例についてのアセスメントを考え、介護計画を作成して発表する中から様々な課題を見つけていく。  |
| 9【Ⅲ生活支援技術の学習】<br>(15)総合生活支援技術演習 | 6 |  | 6 | <b>【講義内容】</b><br>(事例による展開)<br>●生活の場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。<br>①事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1・5時間程度で上のサイクルを実施する)<br>②事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2例を選択して実施<br><b>【実技】</b><br>・事例1(Aさん 84歳 女性 要介護4 認知症)<br>・事例2(Bさん 76歳 男性 要介護1 左不全麻痺)<br>事例に関して「衣服着脱介助」「移動介助」「食事介助」「排泄介助」「入浴介助」の5つの場面について、日常生活の支援を行う場合の介護方法、その介護方法がなぜ必要なのかをグループに分かれて討議する。 |
| 10 振り返り                         | 4 |  | 4 | <b>【到達目標】</b><br>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。   |
| (1)振り返り                         | 2 |  | 2 | <b>【講義内容】</b><br>①研修を通して学んだこと<br>②今後継続して学ぶべきこと<br>③根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)<br><b>【演習】</b><br>・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを、グループ討議の中で振り返りと、確認を行う。  |
| (2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修       | 2 |  | 2 | <b>【講義内容】</b><br>①継続的に学ぶべきこと<br>②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介<br><b>【演習】</b><br>・これからの介護者のあり方、また何が求められているかについて、グループで話し合う。   |